潮干がりが楽しめる干潟をめざして

あいら藻場・干潟再生協議会

姶良（あいら）市

- 姶良市は、鹿児島県のほぼ中心に位置する。
- 温かく豊かな自然の恵みにあふれる、すみよい町。

西郷どんの撮影地（重富海岸）

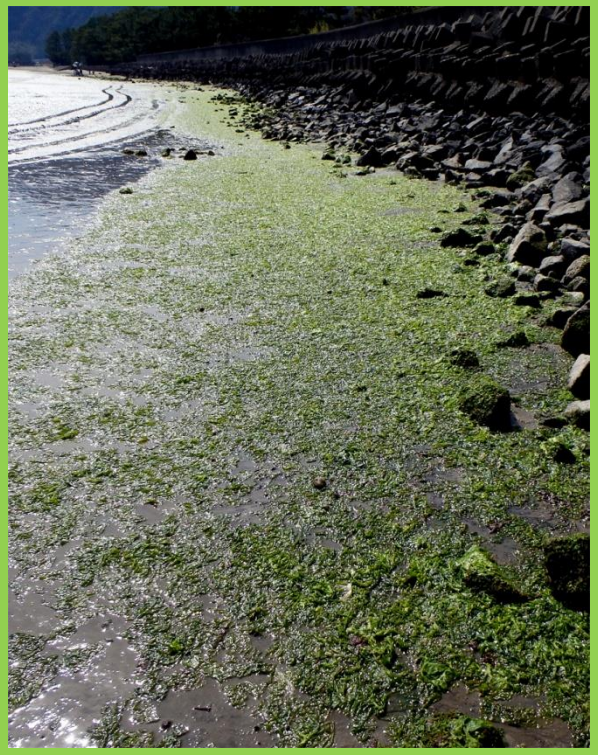
にぎやかだった干潟の今

- 姶良市を流れる思川河口の前浜（まえはま）には、重富海岸と呼ばれる干潟が広がる。
- この干潟は、かつて、県内では数少ない潮干がり場として、数万人の県民が訪れ、自然に湧くアサリの恵みで賑わっていた。
- しかし、平成５年８月の豪雨災害による泥の堆積被害を契機に、アサリが徐々に浜から姿を消していった。

・潮干がり場を維持するために、他県産アサリ稚貝を放流するなど、生き物や人で賑わう干潟を維持する努力をしてきたが、、

食　害

アオサ
堆積



底質
変化

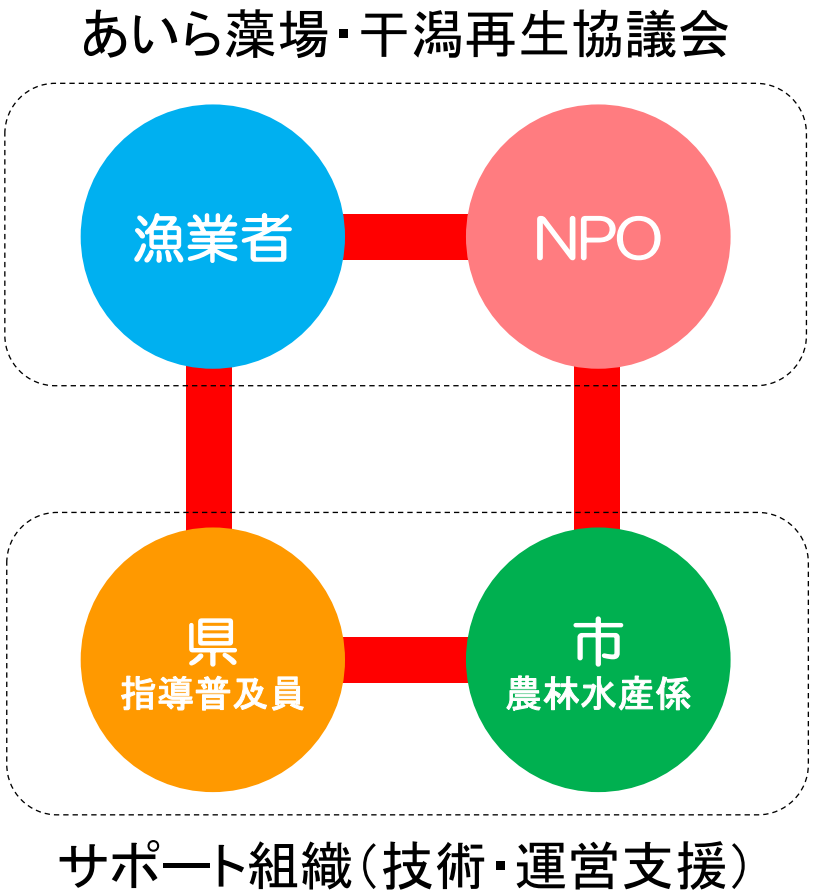
平成23年に潮干がりを中止

重富海岸の全面を禁漁に・・

にぎやかな干潟の復活を目指して

・賑やかな干潟の復活を目指して、、

平成22年4月「あいら藻場・干潟再生協議会」を結成



活動当初の干潟での取り組み

干潟を耕し
底質を改善！

ナルトビエイを駆除
し、食害を減らす！

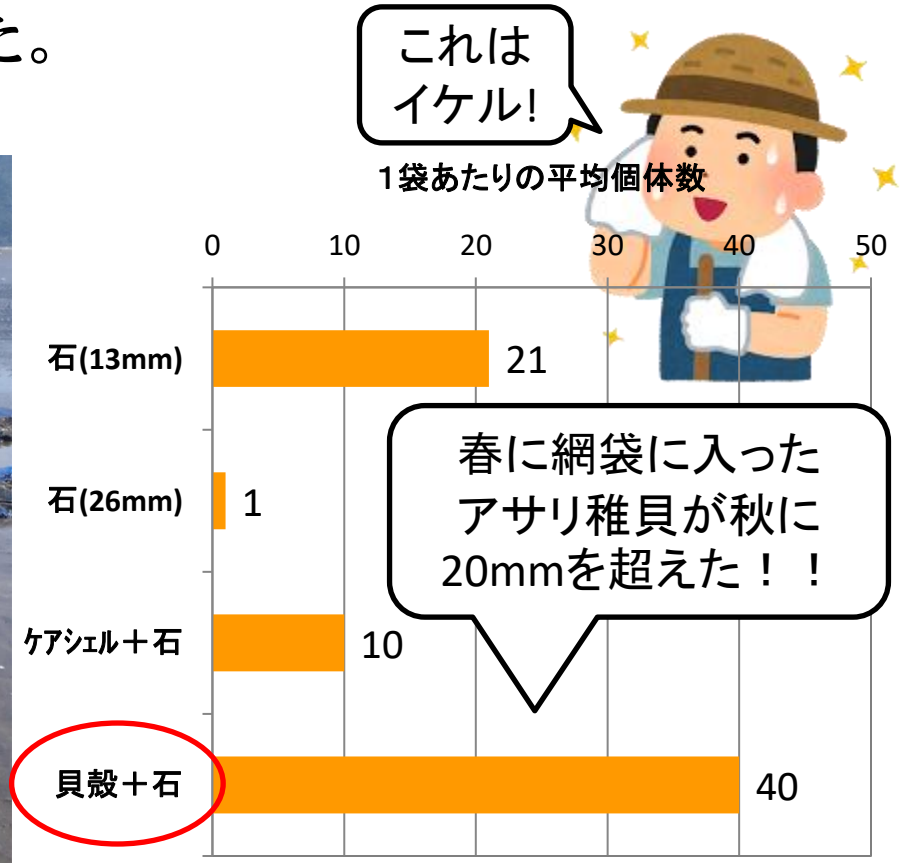
母貝をまいて、
網で食害を防ぎ、
再生産をうながす

活動当初の課題

- アサリ再生産の鍵となる「母貝をまいて網で保護する」取り組みが、上手くいかない。← 母貝の生残が悪い
- 他海域の母貝に頼らない、自生のアサリを再生する技術が求められた。

新たな取り組み

- 三重県で、干潟に着底する小さなアサリ稚貝を網袋を活用して集め、育てる方法が開発された。
- これをヒントに、われわれも網袋を活用したアサリ稚貝の天然採苗試験を平成25年度に開始した。

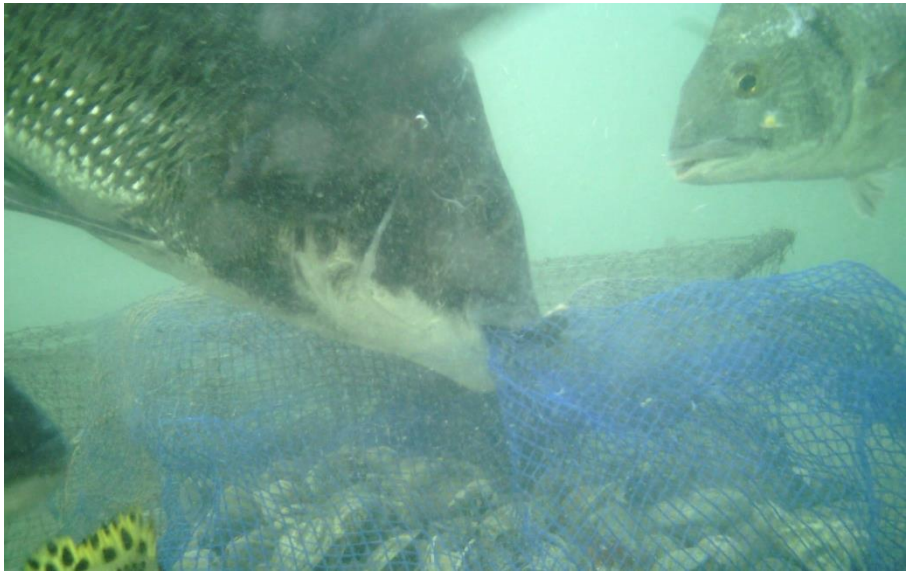


新たな課題

- 試験の結果、天然のアサリ稚貝を網袋で集めることができ、さらに食害の影響を受けず、育てることができることが判った。
- そこで、平成26年度より網袋の数（今年度は2,500袋）を増やし、本格的に取り組みを行うことにした。
- しかし、新たな課題が認められた。いくつかの網袋が何者かに破られ、育っていたアサリが食べられる問題が起きた！！
- 自分らで調査する力がなく、課題・・。

付き合いのある先生に相談しよう！

- 網袋が破られる問題について、以前、タコの産卵礁の試験で親交を深めた鹿児島大学水産学部の江幡先生に相談。
- 卒論生の研究テーマとして、課題に取り組むことになった。
- インターバルカメラを用いた観察結果から、クロダイやキチヌがアサリを食べるために、網袋を破っていたことが判明。
- そこで、今年度から網袋上に被覆網を張り、保護する取り組みをスタートし、対策を図ることにした。



これまでの取り組みをふり返って

- 平成22年度から8年間、潮干がりが楽しめる賑やかな干潟の復活を目指して、試行的に再生活動に取り組んできた。
- その結果、網袋を活用することで、アサリ資源を一定量再生することができるようになった。
- うれしいことに、これまでゼロであったアサリ生産量が、平成27年に僅かだが300kgに復活し、28年は500kgに増えた。
- また、活動を通して、江幡先生や研究室の学生との交流、地元小学校との交流が生まれた。
- 現在、江幡先生の研究室の学生は、漁業体験としてアサリの生産現場の手伝いをしてくれている。また、同大学の山本智子先生の研究室では、重富海岸のアサリ生態の研究がスタートした。
- こうした学校（研究機関）との交流は、私たちの活動の励みになるとともに、力強い助っ人になっている。

今後の課題・方針

- かつて数万人が訪れた潮干がり場の復活を考えると、その道のりはまだまだ長い。
- 現在の課題は、①集中豪雨による河川からの急激な土砂の大量堆積への対策。②網袋だけでは資源量の増加に限界があることから、自然干潟におけるアサリの育成促進が課題である。
- 河川からの土砂の大量流入は、自分たちだけではどうにもできず、水産分野以外の行政などを巻き込んだ取り組みを展開する必要がある。
- 自然干潟におけるアサリの育成促進については、現在、食害防止を目的とした囲い網を用いた試験を行っている。この試験が上手くいけば、今後、網袋と併用して、再生エリアの拡大を図っていく予定である。

ご静聴ありがとうございました